

平成 30 年度第 2 回小熊小学校運営協議会議事録

平成 30 年 10 月 22 日 (月)
午後 2 時～午後 3 時 45 分

- 1 会長あいさつ コミュニティ・スクールは新しいことだが、地域とともにある学校は昭和の終わりごろから言われている。学校は実践している。知に足がついた取り組みが大切
- 2 授業参観 各学級の授業を参観した。
- 3 中間報告 (教頭) 資料を元に説明した。
- 4 来年度に向けた学校経営の方針 (校長) 資料を元に説明した。
- 5 意見交流

委員：修学旅行が 2 泊 3 日とは知らなかった。先生たちの勤務時間が長いので、要領よくやってほしい。

委員：ちふう委員会は今年度でなしとし、学びの合宿も今年度でおわりとしたい。児童が減ってきた。臨時 P T A 総会で、P T A 規約を改正して、親の負担を減らしたい。学級委員の選挙の仕方も、一人一回はやるように仕組みを変えたい。

委員：学びの合宿通算 14 回実施はすごい。

委員：残したいけど、難しい。

委員：やめる話ばかりでは寂しい。大人の事情でなくなるのはちょっと。その代わり他の事でできないか。学級委員の選挙の仕方も永遠の課題である。

委員：減らすのはどうかと思うが、現役世代がやりやすいようにしてもらえば良い。全て一気になくなっていく印象がある。

委員：宿泊研修の引率は 1 日 4 時間の休みを与えなくてはならない。職員数が減って毎日の運営が難しい。職員数は、児童数による定数で決まっている。

委員：5 年生では自然の家に宿泊研修に出かけている。小学生でなぜ 2 泊にしたのか。

委員：:楽しいからではないか。

委員：3 日間終わると、子ども達はくたくたで帰ってくる。十分なお金がある家庭ばかりではない。

委員：行事がとても多かった。地域のつながりは大切だが、すべてに顔を出すことば難しい。

委員：人集めのために小学生や保育園に動員をかけるのは難しい点が多い。先生も土日は休ませたい。町の行事への保育園の参加も減らしている。つまり、今までどおりにできないということだ。賛助会費をなくすと、広報紙の発行はどうなるか。コミセンでは、情報を伝えたいので広報紙を発行したい。印刷もインターネット注文という方法もある。コミセンと学校とタイアップした広報紙も考えなくてはならない。

委員：顔出し写真は名簿もつながり、個人情報となる。

委員：稲刈りの体験は、子ども達は大変喜んでいた。枝豆の作文をいただいたが、素晴らしい文章であった。

委員：直接体験を通して、人とふれあいながら成長していく。手紙を書くことで振り返り、学びの場としたい。

委員：PTA学級委員決めについて、意見を言っている人は多い。

委員：いろんな方から意見をいただいているので、臨時PTA総会ではかりたい。

委員：賛助会費を集めないということは、地区委員が集めに回らなくてよいということか。ある地区では小学生が0人で、誰が集めるか問題になっていた。

委員：スマホ依存は心配ではないか。

委員：PTA母親委員がノーメディアデーを実施している。羽島中学校のテスト期間と合わせて実施している。

委員：この会議はわきあいあいとしていて、和やかな感じがする。中学生は町民運動会でもお世話になる。各小学校の取り組みと中学校の取り組みとで、子どもを一緒に育てていきたい。

委員：小学校の6年間で小学校でやるべきことは、やりすぎてしまうと中学校で困る。できればよいが。2泊3日とか、そこまで時間をかけてやることか。中学校区としての会、正木は人数が多く、足近小と小熊小は小規模。羽島中学校に入学したら、多数の中に消える。小学校で取り組んできたことが無駄にならないように、統一できるところは統一したらどうか。

委員：学校の果たす役割は、勉強と生活習慣を身につけること。人の痛みが分かる心を育てること。今は、学校が本来やるべきことができなくなる状況である。この状況を地域が知ったうえで、今までやってきたことができるのかを考える。英断の時期にある。

委員：学びの合宿もよい取り組みだが、何のためにやっているかを考えないといけない。

委員：中学生が大勢集まる場面に出会うと大人でも恐くないか。

委員：へんに反発する子はいない。

委員：私服でもヘルメットをかぶっている子が多い。マナーがよい。PTAの組織は、市、県、全国へとつながっているから変えにくいのではないか。

委員：ヘルメットの変更はあるのか。

委員：中学生の自転車通学には変更がある。小熊小はこれまで通りで特に変更は現段階では考えていない。

6 事務連絡

・カレーまつり ・漢字検定 ・次回最終回 2月26日

7 校長お礼のあいさつ